



△主な争点△

議案では、「市税条例の改正案」、年金から個人住民税等の天引きを平成二十一年度から行うこと、是非、本人の意志で選択できるようにすべきとの意見ができました。「柏市・我孫子市消防通信指令事務協議会規約の制定」では、反対意見として市民の生命・財産を守る一九番通報の変更など、大きなシステムの変更には市民の意見(パブリックコメント)を聞くべきであるが、実施していないことや柏消防指令台更新時期に我孫子市が合わせる事によって生じる我孫子市側のリースペナルティ負担について、柏に負担してもらうべきであるとの意見。また、賛成意見として柏市との指令システムとの連携強化は確実に消防力向上につながり、指令台の共通運用は操作要員の減、財政面での軽減(補助金の活用)につながるなど、将来のデジタル通信化に向けて必要なことだという意見など消防通信指令の在り方について意見が集中しました。

△子ども居場所△

△子ども居場所(あびつクラフ)について△

△現状△

市内小学生の全児童を対象に、安全且つ健全に放課後や土曜日等を過ごすことのできる「子ども居場所」を全小学校区で実現するため、平成十九年六月か

ら市内一カ所、第一小をモデル校としてスタート。当初は十九年(二十三年度)までに全校(十三校)実施する予定で計画。その後、学童保育との運営の一体化を含めて検討することになり、四月に新たに設置した「放課後対策事業検討委員会」で今年度中に方針を出す予定で検討が進められている。

△宏△

子どもの居場所は、本来は家庭や地域社会のなかで育まれるものであり、学校がどこまで行うのか疑問もある。しかし、現代社会における家庭の教育力低下、地域環境の変化等を考える必要も理解はできる。設置にあたり、限られた財源の中で実現していく方法として、当市で既に行われている学童保育(本来は就労支援のための低学年対象)との一体化を含めて検討し、教育の機会均等・公平性からも短期間で全校実施を実現する必要がある。



△諸物価高騰中の学校給食について△

△現状△

我孫子市は全校、自校方式で調理を行い、全小中学校で我孫子産米の学校給食を、週三回以上の米飯給食を実施している。

学校給食の献立は、基準給食費内で計画立案するためには昨今の食材の高騰に対しては各校でかなりの努力をされている。メニューを精査して既製品をなるべく使わず、手づくり品を増やすなど、共同で購入するものを多く利用して、なるべく単価を抑えている。またパン類が昨年に比べて値上がりしている中で、パン給食やめん給食よりも安価な米飯給食を極力入れていく。栄養士たちが情報交換をし合いながら、現在の給食費で何とか、努力をされている。

△宏△

学校給食の目的は安全・安心且つ栄養面での質、量の確保が大原則、今後、各学校の工夫だけでは補い切れない部分も出てくる事が予想される。まずは、各校の栄養士さんは研修を通じて、情報交換を密にし、仕入れについても共同購入品の拡大、季節にあつた安い材料を効果的に使う工夫や我孫子産米の有効活用、年間実施回数の見直しなど、値上げを回避する努力を引き続き行ってもらいたい。その上で、値上げを前提としない「給食検討委員会」を立ち上げ、メニューには各学校から保護者の方も含めて、学校給食の今後の在り方を検討していくべき時期がきていると考えている。その中で、給食費未納問題の具体的な対応策も含めて検討してもらいたい。

△宏の独り言△

九月議会、市政に対する一般質問や農業問題を所管する環境生活常任委員会の複数年の議員から我孫子市で平成十七年度限りで廃止された「ヘリコプター」による農薬空中散布の再開について、意見・要望が出された。我孫子市植物防疫協会に農協が「平成十九年度産米穀検査結果報告について」にある。それによると、米の等級比較において、我孫子産米と柏産米のカメムシ等の被害状況を比較。十八年度産米において「我孫子市は百三

★ 市政報告会のご案内 ★

9 月定例市議会のご報告と「これで良いのか、我孫子市は」の視点で、地域での諸問題をいくつか取り上げながら、意見交換・和やかな報告会を開催したいと思います。どうぞ、みなさま奮ってのご参加をお待ちしております。

◆ 日 時：平成 20 年 10 月 25 日(土) 午後 6 時～7 時 30 分位

◆ 場 所：布佐南近隣センター集會室

◆ その他：事前予約等不要・参加費無料 (お気軽にどうぞ!!)

9 月定例市議会、印南 宏は予算審査特別委員会、教育福祉常任委員会にて質問と提言を行いました。

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

十八袋・柏市は二十袋」であり、十九年産米は「我孫子市は三十袋・柏市は〇袋」の実績となり、この差の原因として柏市は空中散布を実施、我孫子市は十八年度より中止をしている影響が多分にあると報告している。

我孫子市は過去、農薬の空中散布を休止する為に、五年間にわたり空中散布に代わる防除方法を検討・研究した経緯がある。そして①我孫子市は減農薬、減化学肥料の取り組みを推進していること。②農薬取締法遵守の観点から、周辺の野菜などへ飛散防止。③省力的な手法で病害虫を抑制する育苗箱施用剤の普及。④都市化が進む当市において住宅地への飛散、事故防止。⑤無農薬、減農薬を求める消費者志向。などの理由で、空中散布を止めることができた。私は今回の検査結果はしっかりと原因の究明が必要だと考える。なぜならば、空中散布をしていない他地区において、カメムシ等被害が少ない地域もあることや市内の防除薬剤の使用で、特にカメムシに対策に効く、スタール粒剤の利用実績が面積換算で約9%と極端に低いことなど、せっかくの環境保全型農業を営んでいる我孫子市にとって農薬の空中散布再開は絶対にしてはいけないことだと肝に銘じている。



**たまには夫婦で映画を!**

最近、時々だが夫婦で映画を観ることがある。近くに(印西ニユータウン・シネリーブル)映画館ができたことも理由の一つ。また、なんと言っても、何時行っても、どちらかが五十歳以上の夫婦なら、二人で二千元、つまり一人千円で話題の映画が観られることが大きな理由である。先日、「おくりびと」という映画を観た。滝田洋二郎監督が永遠の旅立ちを描いたモントリオール映画祭グランプリを受賞した作品である。

楽団解散で失業したチェロ奏者の主人公、大吾(本木雅弘)は夫婦で故郷の山形に戻る。そこで見つけた仕事は遺体をひつぎに収める納棺師、佐々木(山崎努)の助手であった。なんとか慣れた頃、妻、美香(広末涼子)に仕事を知られ、家出される。「納棺師」という意表をつく仕事。私たちが廻りには、毎日多くの人が亡くなっている。普段我々の生活では知らない世界、ひっそりと、このような仕事に従事している方がいる。お葬式など人の死にかかわる仕事は収入が良いからか、かといって誰もやりたがるものではない。まして、遺体に直に触って、丁寧に、送って、くれるその仕事は、覚悟が必要であり、死者に対して敬意がなければ、死者を美しく仕立てることは、死者を美しく仕立て

て送り出す作法が、鮮やかで厳粛に執り行われる。まるで生き体を目にするような化粧を施された命が輝いていた頃を彷彿させ、あたたかい気持ち、人を大切にしたいという思いがあふれ出てくる。納棺師のことを軽蔑するような表現が映画では多く出てくる。しかし、その仕事ぶりを見守るにつけ、印象が大きく変わっていく。山形の冬から春にかけての自然も美しく、故郷に響きわたるような大吾のチェロも素晴らしい。久石譲の音楽も映画を俄然、盛り立てる。

山崎努、演ずる佐々木社長の人間性、大吾と美香との夫婦愛、死者をめぐる人々のドラマが人生を考えさせられる。そして、最後に明かされる風呂屋の常連である笹野高史の職業とは、久々に夫婦二人して泣かされた。この感動に拍手。

**予算審査特別委員会あれこれ!**

**指摘事項**

非常勤一般職である嘱託職員報酬について、当初予算では十一人分を計上していたが、九月補正予算では嘱託職員を増員するため十二人分を新たに追加予算として計上。(計二十三名分)

**印南**

当初予算編成時における市職員の定年退職・中途退職者数の見込みに甘さがあるのではないかと。我孫子市の職員数は第四次定員適正化計画(平成二十一年から二十三年の三カ年)で定員管理をされているが、正規職員の補充を単純に非正規職員である臨時・嘱託職員で補うことは、確かに非正規職員の諸条件を考慮すると財政的には確実に人件費の圧縮にはつながらず。

しかし、非正規職員が継続的に雇用を前提として考えられている現在の仕組みを考えると、市職員の人材育成の在り方や格差拡大など働き方に問題がある。一定員適正化計画に正規職員数と臨時・嘱託職員との非正規職員との数も考慮に入れた、しっかりとした定員適正化計画を策定していく必要がある。



指摘事項  
白樺文学館の管理運営について。

印南  
白樺文学館は平成二十一年度  
に民間から市へ寄贈されること  
が決まっている。平成二十年度  
は移行に向けて白樺文学館と我  
孫子市が締結した協定書を基に  
施設や備品の維持管理、来館者  
の受け付けや案内等を共同で行  
っている。

市は今年度中に白樺文学館を  
今後とも持続可能な施設として運  
営していくため、来年度に向け  
た運営方法を確立していかなく  
ればならない。白樺文学館はこ  
れまで、一年の入館者数、約五  
千人前後、毎年八百万から一千  
万円の赤字計上していた。民間  
から我孫子市の公営施設となる  
白樺文学館、貴重な施設の寄贈  
を受ける我孫子市は、この施設  
を最大限活用できる手法・運営  
方法を考え、我孫子市の誇れる  
財産となるように活かしていく  
責任を負っている。

平和台雑感

先月の中旬、布佐平和台自治  
会主催の「出前講座」災害に備え  
る」を受講した。会場は自治会  
館には多くのご近所の方々が集  
まり、講師である市役所、市民  
安全課職員の話に傾聴した。講  
座では初めに八月末に市内に襲

い掛かった集中豪雨の報告、そ  
してDVD「救えたはずの命、  
阪神淡路大震災」のビデオでは、  
災害の恐ろしさをあらためて思  
い返す映像に、日頃からの備え  
の重要性を再認識させられた。  
みんな熱心に地震対策や台風や  
集中豪雨に対する日頃からの備  
えの大切さを学んだ。自治会長  
はじめ防災委員会皆様の日頃か  
らの自治会活動に感謝。  
◆今年五月中国四川省で発生  
した四川大地震から、まだ四ヶ  
月あまりしか時が経っていない。  
遠い過去のよう感じるのは私  
だけであるのか、聞くところは私  
よると被災者の厳しい避難生活  
は今も続いているという。政府  
から支給されている一日十元の  
生活費や米の支給は地震発生後  
の三ヶ月で打ち切られ、学校の  
倒壊で子供を失った遺族への対  
応も改善しない。喉元過ぎれば  
熱さを忘れる。災害は忘れた頃  
にやってくる。教訓を忘れては  
いけない。  
◆農相の辞任に発展した汚染  
米・事故米問題や中国製粉ミル  
ク入り菓子問題や国内流通で食の安  
全が再び脅かされている。我孫  
子市内十三の小学校の内、事故  
米が原料のどん粉が微量入った  
厚焼き玉子が、我孫子第一小、  
我孫子第四小および高野山小の  
給食で使用されたことが現在ま  
で分かっている。他に事故米を  
使用した例はない。国をあら  
ためて徹底の安全にしようだが、  
ならない。底・改善をしなければ  
ならない。それにして「風評

被害は検査体制の不備が原因  
と私は思うのだが官に對して国  
の処分が甘い。大阪農政事務所  
の元課長のほか、多くの職員が  
三笠フーズなどから手土産をも  
らうなど、飲食を共にしている  
が、「職員の身分保障」を理由に  
所属の農政事務所名すら公表さ  
れていない。全く理解できない。  
◆また、社会保険庁による厚  
生年金記録の組織的改ざんが発  
覚。厚生年金の収納率を上げる  
ために、事業所に改ざんを持ち  
かけ、本来支払うべき保険料を  
引き下げていたとは呆れて何も  
言うことができない。その結果、  
従業員の年金が減額されてしま  
う。改ざんは組織ぐるみで行わ  
れていたという評言も出ている。  
事実を明らかにして関係者の処  
分を厳正にすることはもちろん、  
このようなことが起こる組織の  
体質を改善すべきである。歴代  
の厚労省と社保庁の歴代幹部の  
責任も大きい。いずれにしても  
事実の解明と責任問題をうやむ  
やにして事なきをはかるとした  
ら大きな天罰が下るものと私は  
思っている。  
◆今、川柳がブームだそうだ。  
私も先日、好きな日本酒を飲み  
ながら「秋の夜に思い出深く一  
人酒」など詠んでみた。平和台  
でお世話になつていらっしゃる方  
が代表を務めている「東葛川柳会」  
が新聞で大きく紹介されていた。  
県内一の会員数を誇る川柳会、  
今、川柳が中高年に愛される理  
由は何なのか？その答えは「中  
高年を中心に生きがいを求めて

いる。日本語のブームも川柳を  
後押ししている。長い人生経験  
を経て、ものの見方、考え方が  
短い表現に凝縮されて出てくる  
ところに魅力がある。やさしく  
て難しいし、難しくてやさしい。  
わづか十七文字の世界。人の心  
のありようも人さまさま、川柳  
に勝る文芸はない。中高年はも  
とより若い人たちにも、川柳と  
日本語の素晴らしさを知っても  
らいたい。」と代表の弁。秋の夜  
長、難しい経済の話や仕事を一  
時忘れて、今宵、自分なりの一  
首、川柳づくりを精を出してみ  
ませんか？

宏

印南 宏後援会  
〒270-1198 我孫子市日の出 1131  
(日本電気労働組合我孫子支部内)  
Tel 7184-2860  
印南 宏 自宅  
布佐平和台 7-1-18  
Tel 7189-1598  
e-mail innami@mqd.biglobe.ne.jp  
ﾌﾞﾛｸﾞ http://hiroshi4649.at.webry.info/